



俳諧  
今人五百題三編  
春

^ 5  
4122  
1



利 5  
4122  
1-4

梅之本為山編輯

俳諧 今人五百題三編

書林 萬笈堂梓

序

今人五百題集の序とせあま  
さるつとほのたうのうのま  
けくんと梅木小たをせとあま  
つる小桃くりのこをたをせと  
きたえ辰のたをせとたをせと  
ちりたあ柚子梅のたをせとた  
とせとつるたをせとたをせと

明治十一年一月十日  
俳諧部

之編をいつらとす小よむ心なかりし  
 立しよふふや花のあはりの松あか  
 け居きとちつこのまやしにうた  
 びしつこのいつしつ松のこまき急に立  
 ちしつぬきしつしつしつしつしつ  
 満川のちうるちぬ道く小舟を  
 次うちやと松れむのあしつしつ  
 うしつす

今人五百歌書之部目錄

花	一	初梅	三	梅	三	逢梅	四
系き	四	果	思	之	部		
元日	四	初忠	四	初日	五	初節	六
初夢	六	初鳥	六	初東風	七	初曆	七
初夢	七	立春	八	明の喜	八	ひきめ	八
清代の喜	八	あのみ	九	宍の喜	九	お源	九
福夢	十	門松	十	伝連傍	十	あみ	十
年男	十	首	十	尾	十	教	十
太箸	十	喰積	十	蓬菜	十	書初	十

着衣初	十五	稻積	十五	年礼	十五	馬交	十五
羊玉	十五	福引	十六	子鞠	十六	破弓	十六
世羽子	十七	万葉	十七	志方	十六	水祝	十八
若水	十八	三ヶ日	十九	福景	十九	魚おみ	十九
弓始	十九	花開	十九	湫初	二十		
		植	とりの部				
ふ日	二十	小松引	二十	七絶	廿一	芥菘	廿一
菱の花	廿一	佛の坐	廿一	芥	廿一	甘由	廿二
若菜	廿二	梅	廿三	柳	廿七	下着	廿九
若草	廿九	春草	廿九	核	廿九	紅梅	三十
松花	三十	落の香	三十一	木の芽	三十一	莢	三十一
萱	三十二	鼓草	三十二	摘草	三十二	土筆	三十二

土加木	廿二	獨活	廿二	芦の角	廿三	接木	廿三
さし柳	廿三	さし木	廿四	菊根分	廿四	菊苗	廿四
桑搦	廿四	茶搦	廿四	菜の花	廿五	種おろし	廿五
苗代	廿五	木尻	廿六	連翹	廿六	桃	廿六
海棠	廿七	梨花	廿七	辛夷	廿七	木蓮花	廿八
石楠木	廿八	青麦	廿八	つらゆ	廿八	藤	廿九
山吹	廿九	つら	三十一				
		生	たりの部				
ささぎ	四十	梅の意	四十一	白魚	四十一	冬の菜	四十三
若子	四十二	雛子	四十四	雲雀	四十五	冬の厂	四十五
浮石	四十六	乙子	四十六	鶺鴒	四十七	雪	四十七
まきの鳥	四十七	鶺鴒	四十七	冬雪入	四十七	初凍	四十八

雉	四六	比	四九	雉	四九	初雉	四九
雉	四九	雉	五十一	若枯	五十一	蚕	五十一
角	五十一	乃鹿	五十二				
時	時	作	三				
佐保姫	五十二	おつき	五十二	如月	五十二	やよひ	五十二
人日	五十二	松の内	五十二	佐後也	五十二	源引	五十二
依侶河	五十三	猿回し	五十三	裏	五十三	源	五十三
蟠月	五十四	巾	五十四	表又入	五十四	初雪	五十四
春雷	五十五	冰解	五十五	暖	五十五	山花	五十五
春の虫	五十六	浮氷	五十六	雪間	五十六	雪解	五十六

凍糸	六十一	春の雪	六十一	淡雪	六十一	東風	六十一
春風	六十二	春雨	六十二	春の月	六十二	春の雪	六十二
春の歌	六十三	春の月	六十三	春の歌	六十三	春の海	六十三
春の山	六十四	山笑	六十四	糸掛	六十四	陽炎	六十四
春の温	六十五	海苔	六十五	草餅	六十五	二日灸	六十五
初午	六十六	彼岸	六十六	水忌	六十六	涅槃	六十六
西行忌	六十七	永日	六十七	逢日	六十七	生代	六十七
雛	六十八	雛合	六十八	沙干	六十八	曲水	六十八
長閑	六十九	麗	六十九	畑打	六十九	別霜	六十九
壬生漏	七十	入	七十	夏近き	七十	待夏	七十
春の雪	七十一	初雪	七十一	春潮海	七十一		

始る三不三歌

...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...



花

今人五百題發句集

春之部 梅之本為山 輯

照燈猶わつりてともなき花見哉  
 系ちやちひていんちんちん  
 晴きりいむくあまきうや系のあ  
 えをち〜をのちりてや梅まきり  
 かりりやち梅〜ん系えのそをいし  
 さけ〜きさ〜梅を系〜く〜けり  
 ぬ〜ちむふちうふり梅〜れ  
 しの系け〜あ〜ん〜ん〜の言り

梅宝  
 一具  
 義香  
 味舎  
 孫山  
 万係  
 孤舟  
 栲成

晴くけりてこの春もなかり春の中  
むくもむくもむくもむくもむくも  
余のあやも御まもむくもむくも  
幸無きあやもむくもむくもむくも  
井の底の小結もむくもむくもむくも  
又いそめてむくもむくもむくもむくも  
花のふりもむくもむくもむくもむくも  
春のふりもむくもむくもむくもむくも  
けふのくくもむくもむくもむくもむくも  
さくら花やむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも

双馬 七耕 菘菜 淡島 中誓 風光 素英 不深 大乃 相照 貞々 庭豊

むくもむくもむくもむくもむくも  
あやもむくもむくもむくもむくも  
月のむくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
今やむくもむくもむくもむくもむくも  
物もむくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも  
むくもむくもむくもむくもむくも

琴舟 西池 竹村 菅居 而后 山音 松風 帷子 悠々 古々 奇蹟 風尾

いそよそよきよまきくふはけきなり  
茶人よまきぬはほてあしりきも  
や梅よまきぬをちるや茶さうり  
たまのしとまき花ちん移りぬ  
ありしちるさうり帰らふさうり  
父さうりのやまひいりや花のそら  
あつらうりさうり人の破籠うさ  
茶のちり月おとまきさうり  
月見さうりいりし源一茶さうり  
おしりてぬれい茶さうりいりや茶のさう  
おあまぬぬいしとや茶さうり  
きさのよみやとらを法ひやく

梅 権  
石 源  
茶 園  
石 堂  
梅 莊  
山 外  
右 甫  
西 馬  
戸 古  
外 山

初 梅

梅

二人よいしりいささうり初さうり  
まきぬれをさささうりさうり梅  
くたうりしちるさうり初さうり  
えぬいしりいささうり初さうり梅  
見てさささうり甲斐とあき初梅  
しりしちるさうりさうり初さうり  
まきぬれつ 船のうりけさうり  
しりしちるさうり初さうり梅  
おしりてぬれい茶さうりいりや茶のさう  
おあまぬぬいしとや茶さうり  
きさのよみやとらを法ひやく

一 具  
ま い 川  
梅 巖  
幽 年  
金 風  
乃 山  
本 山  
海 江 女  
梅 庄  
山 子  
梅 庄



つるーほいれもをさやる振うの  
本ていれい本おれとをささう  
まをくく人のいりるふさう  
又ておるー振うつる木の音  
熊野よ又もいすさささう  
山伏の古の師てり振う神  
あていてあてく日さるさう  
夕言のいりるさるさう  
木桶の振うー振うの  
もつうのいりるさう  
うりー日の言るを振う  
振うさるーの言や振う

護岳 打堂 津勇 五浪 嶮風 木架 里若 野野 波同 山笠 哉知 山音

遷振

系  
さ之系

ゆ桶さいものいりるさう  
おりーの振うふむつきー  
流勇さーいりるさう  
まをいれいおれい人あつ振う  
時よをいりるさう  
いりるさうの言やいりる  
おれくと夕日いりるさう  
さるさう本もさるさう  
ほりるいりるさう  
水音をいりるさう

ろ山 五外 山子 山子 山音 相古 鼓江



初 空 日

香のよりのつらき〜 庭〜 初日のか  
 人けりのゆきふ志々々まつ日のぬ  
 むらひふハ葉よき〜 人初り親  
 一とふよ〜 初日のぬやたのり  
 さ〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 雪のよけね静まりまつ日のぬ  
 ま〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 宵〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 口〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 水〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ

水 壺  
 万 干  
 多 よめ  
 たい 川  
 変 水  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭

初 鶉

庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ  
 庭〜 庭〜 初りすや初日のぬ

庭 壺  
 西 馬  
 士 馬  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭  
 庭 庭

初

霞

初鳥

籠はねはさつとつしや初鳥  
 砂子鉄将をもほりえん初鳥  
 山の標ふ日の昇つるやまの雲  
 霧の啼くものさうり初鳥  
 うらたけ—雪中の枝や初鳥  
 初鳥かふるものそとかりひら  
 いり初と出る初鳥  
 清くおもるるそと風流や初鳥  
 初もほえいせねく照る初鳥  
 嵐のそよひさるの初鳥  
 けいこのうらたけ初鳥

共 巽  
 石 旗  
 昇 市  
 可 箭  
 友 新  
 夢 涯  
 波 静  
 法 風  
 道 依  
 柗 之  
 素 英

初

初東風

梅ささるるれん山ささるるれん  
 きりの吹くふくや初鳥  
 今はつともあきやまのそり鳥  
 秘ありて春風のうらや初鳥  
 さく刺さるるものめつり初鳥  
 珠山やあつたれく初鳥  
 一考りて春の中さうり初鳥  
 初のうねの雲もあつた初鳥  
 出初りてはるうらさうり初鳥  
 初東風やあつたつらのけさひさ  
 ちのそよひさむらひ初鳥

大 乃  
 布 丈  
 西 池  
 長 川  
 奔 水  
 山 子  
 石 外  
 卓 高  
 梅 堂  
 古 屋

初曆

初夢

初夢はふくらむ袖の白ひうか  
芳山  
初夢屋やみやけの神ふらむ

おきかておくらもらり初曆  
橋山  
会入てふくらもらり

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷  
ふさかりふくらもらり

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷  
初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
為谷

春

立

春

春

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

初夢屋は深くまらぬ初らふみ  
東海

東海 貞之 茨山 六橋 香松 雲来 柳塚 西馬 杉山 古山 乃山

明の春

和ハミル春カニ向テ 時のま  
つらみさりやうらぬ 向のま  
静のほろ糸もささる 時のま

柔水 友耕 雅研

今朝の春

揺らふもあつく 雨も 夕のま  
雪さひのゆけと 雪うり 夕のま  
たくほろふ 春も 雨のま

社修 秋与 ともと

御代の春

急らふは 時のうらや 御代のま  
あつくは 御代のま 御代のま  
おとあつくは 御代のま 御代のま

菊 旌 ともと 舟舟

花の春

神代や 花も 影うかむ 時のま  
雪うかむ 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
花の香も 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
このせう 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ  
糸のちる 影うかむ 影うかむ 影うかむ

縁久 乙良 里塘 呉雪 白翁 月庭 南枝 祖所 津原 乃山 松什

宿の春

御降

春の宿の春のまきうり首のまき  
力くらねとまきまきまきまき  
枝のまきとまきまきまきまき  
降まきまきまきまきまき

清風 杜穢 不除 市川

御降のまきまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき

多上り 喰風 庄泥 豊川 羽長 桐滝 卯月

福寿草

おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき  
おさうりやまきまきまき

梅之 岱年 越弁 栝朱 松風 梅室 栝通 可亭 遊梁 重頁 清風





連勝

古くは代の上り代して、庵のかしらに  
けりてあえそつろをや門うさり  
か人も林の友らうはまの目  
まや代の上りかたや勝つて  
香折をねかきしつら  
のくまかたもまらやはまの  
傷もりやあまらけり  
枝のりやうらあてさき門さ  
ねらさきさきもゆかきり  
まのまや水折ふまはらさ  
孫根のまらうらうらうら  
ま出のまかや折らも一かきり

一具  
松竹  
五福  
斗一  
山方  
幽平  
赤成  
六橋  
布史  
丈翠  
早房  
香陽

若藤 幸男 園

この時を憶ふまはつは  
わが時をうさのけさる庵のま  
まらうのまもやうらあまら  
流しそまらつらぬ年男  
あまらまらあまら  
待たてまらまら  
誓のまらまら  
園  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

若藤  
下之  
流  
法彦  
山子  
幸山  
為山  
匠  
寺  
外

屠獲

旨うとたをを 表さる抄ひくよ  
 屠獲 海や内儀しりり、多々紫  
 屠成乃 表くをくやとらん被  
 交りや 屠獲人表くは海一り  
 づれすらや 表くは海と拵あし  
 膏くく 乃海をいひぬとくハ成  
 表すくく 表ひ合る屠獲の尻  
 従ふ作とさふと 表のつくまらり  
 細術く 表さるいづく新表す  
 得食の 表さる屠獲や新表す

以 茶  
 茶 吉  
 二 茶  
 立 字  
 外 字  
 交 水  
 中 屋  
 三 和  
 九 起  
 原 帝

雑煮

六箸

習うとも せてつらる新表す  
 新くや 新表かりりいりくを  
 十とん せつとふらや新表後  
 松の表く せつとふら新表左  
 猪 屠獲てつらる せつとふら新表

古 表や 末の 細くはる新表  
 古 表や いたつと表すくはる新表  
 古 表や いらつと表すくはる新表  
 古 表や せつとふら新表  
 古 表や せつとふら新表  
 古 表や せつとふら新表

茶 山  
 松 帝  
 松 帝  
 松 帝  
 松 帝  
 松 帝  
 松 帝

喰積

蓬菜

左無を先あつゝふや積の上  
 喰積やかうゝをせみきてあふふ  
 といつゝやあふふ日のきす竹根子  
 喰つゝやあふゝ人のまらまきし  
 とい積と一人あの中まらあ  
 昔はあふひく孫まゝむま積か  
 喰つゝいやはあふゝあふゝ孫との  
 昔はあふやあふふまらあふゝあ  
 昔はあふやあふふゝあふゝあふゝあ  
 喰つゝあふのねふもあふゝあふゝあ

山方  
 松什  
 舟代  
 雲来  
 山方  
 早命  
 交水  
 越あ  
 好朝  
 松屋

書初

昔はあふのたふあふあぬのあふゝあ  
 昔はあふやあふのあふゝあふゝあ  
 昔はあふゝあふゝあふゝあふゝあ  
 喰つゝあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ  
 昔はあふやあふゝあふゝあふゝあ

系屋  
 松屋  
 涼宏  
 喰風  
 松島  
 山方  
 山方  
 味金  
 而喃  
 素彦  
 波路

著衣初

月夜の二文字はまきんをきくち  
書初やくしるまきんをきくち  
船のふちまきんをきくち  
炭のふちまきんをきくち  
林の灯をきくち  
まつり引渡もきくち  
去るや二粒をきくち  
本河をきくち

序了  
尾村  
山外  
冬来  
如碓  
茶熟  
為久  
為山  
惟草  
蓬山  
二葉

稻積

辛礼

いねつむやかいつさくぬ  
稲積やかうりつさくぬ  
稲つむやかいつさくぬ  
いねつむやかいつさくぬ  
稲つむやかいつさくぬ  
いねつむやかいつさくぬ  
稲つむやかいつさくぬ  
いねつむやかいつさくぬ  
稲つむやかいつさくぬ  
いねつむやかいつさくぬ

菅九  
多好  
禾月  
巴淵  
兼芳  
好静  
寸み城  
市風  
松空  
五在  
松空

御慶

あつたりのてんきいふんれぬれきお  
年れやわたりて高の山極盛  
きくくいふふふふふふふふふふ  
出うれいふううううのふふふふ  
松よふふふふふふのふふふふ  
酒のふふふふふふのふふふふ  
おきんてふふふふのふふふふ  
よふふふふふふふのふふふふ  
年玉の月さしてふふふふふふ  
いふふふふふふふのふふふふ

松 彦  
乃 山  
等 哉  
一 末  
折 味  
石 橋  
南 々  
如 矣  
西 馬  
尾 村

年玉

福曳

とく玉や衣も扇もいとふふふ  
年玉お新敷も世のぬりぬ  
や玉や袖のふふふふふふ  
福曳のせのつらふふふふ  
福ひふふふふふふのふふふ  
ふくふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ  
福ふふふふふふのふふふ

松 彦  
下 知  
厚 橋  
是 法  
松 彦  
祖 師  
得 長  
末 明  
應 知

手鞠

破魔弓

注ししと材はかきも鞠うふ  
 としとらまの耳をこまふあふ鞠うふ  
 又をけりふてややうけするまのけ  
 口のたふらあをさうしとらふも鞠うふ  
 破すらや芥もさうしとらふも  
 たまらや長をさうしとらふも  
 破すらのさうしとらふも  
 非れと破すらさうしとらふも  
 実をさうしとらふも  
 ね子らうしとらふも

松出  
 玉境  
 昔後  
 山秀  
 松出  
 止字  
 注静  
 大け  
 不吉

遣

羽子

萬歳

うらまの流のまらや羽子のむく  
 きりぬまや所の日暮のおりる  
 やまぬまや門の柳を陰しそ  
 尾りまこや尾りまらうのけのけ  
 きりぬまやまらうのけのけ  
 万葉の牛きつてのわらひ  
 あひおのあ万葉をさまきり  
 きん家のかきとねやうみね  
 万葉の傘あつる小きうれ  
 万葉の角浮やうらうら  
 万葉やまのまらうらうら

其儂  
 斗一  
 味味  
 杜電  
 古き  
 唐風  
 見外  
 不潔  
 万縁  
 松出  
 羽人

万葉や系新詠... 主とくあり  
せんややあひおりののり心歌  
万葉の思ふ向ふかきふ子休るあ  
系文とああや... 檜の上  
万葉やまきくせめて... 檜の  
中んやや袖うつさやく市の中  
んやや... 歌万葉... 歌  
万葉や... 万葉... 万葉  
万葉の... 万葉... 万葉  
万葉の... 万葉... 万葉

可庭 唯風 物唐 和月 無陰 笑路 宗路 泰甫 欣志 三無 津宮 漢島

惠方

万葉の... 万葉... 万葉  
削り目も... 万葉... 万葉  
柳か... 万葉... 万葉  
おき... 万葉... 万葉  
初うけ... 万葉... 万葉  
体や... 万葉... 万葉  
古の... 万葉... 万葉

万葉 柳通 不丈 主極 和堂 社涼 風 久前 社雪

水祝

水祝の... 水祝... 水祝  
水祝の... 水祝... 水祝  
水祝の... 水祝... 水祝  
水祝の... 水祝... 水祝  
水祝の... 水祝... 水祝  
水祝の... 水祝... 水祝

水祝 水祝 水祝 水祝 水祝 水祝 水祝 水祝 水祝 水祝

若

水

つる水や星をさしにめけり 四つ  
香かきり若水雪やうすし 紅  
つらつらや露をさかきかき 風さし  
若水や水うすし 舟の物籠 籠  
つらつらや雪をさかき 舟の物籠  
若水や雪をさかき 舟の物籠  
若水や雪をさかき 舟の物籠  
若水や雪をさかき 舟の物籠  
若水や雪をさかき 舟の物籠  
若水や雪をさかき 舟の物籠

抱 儀  
ちうら  
白く  
山 子  
由 く  
市 山  
大 乃  
孤 舟  
乍 人  
淡 痛  
乃 山

三ヶ月

福 藁

人の来るを多敷せし 三ヶ月  
船りしうたよきとおさや三ヶ月  
るをさしりしうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月  
三ヶ月のうたよきとおさや三ヶ月

舟 室  
里 境  
山 子  
交 水  
舟 室  
山 丸  
山 良  
舟 室  
舟 室



懸想文

金鳥之故のまきねの空ふんり  
つるつるふ刺さる心や無想文  
まのしをて空ふまきねの空ふ

松陵  
江三  
喰

弓 姑

まのしをて空ふまきねの空ふ  
まのしをて空ふまきねの空ふ  
まのしをて空ふまきねの空ふ

志江  
江三  
琴中

藏 開

二之五 帆とまのし  
帆とまのし  
帆とまのし  
帆とまのし

万古  
三和  
夏之  
六槐

鉄 初

鉄をりやゆもろく  
鉄をりやゆもろく  
鉄をりやゆもろく  
鉄をりやゆもろく

丁知  
仁三  
山子  
九起  
山方

子 日

中人のやうきまら  
中人のやうきまら  
中人のやうきまら  
中人のやうきまら

和什  
右年  
舎用  
心兒  
身外

小松曳

泉の渚よ移るに小松曳ふらり  
 うりてハ連らうらうら小松曳  
 曳く後々を幸のすむ小松曳  
 念入て動きかられら小松曳  
 又ももふちうう競也小松曳  
 くくのううう小松曳あま  
 松曳てゆいしうなりまの句い  
 若けしと袖もこくくや小松曳  
 初も曳とねよまうくまうくま  
 ちと香のあうつ曳まこ小松曳  
 澄石のたれふ移る小松曳

松 宮  
 雅 州  
 道 字  
 共 友  
 法 彦  
 雪 琴  
 山 方  
 杜 水  
 芥 山  
 大 乃  
 為 山

七種

芥薺

七種や岸のさうり 柳乃  
 七とさや宵の梅子のかま  
 かりまや梅とちやま小松  
 今むううま七とさ梅子  
 人さうりててもおひううま  
 七種やうたやもらる回  
 一ひよ子のおあえうり 芥薺  
 層柳や梅と越きたせり  
 うりうけをさよまらり 芥薺  
 花うりまらうりぬ 薺の梅子

双 南  
 紫 山  
 未 月  
 清 氏  
 三 井  
 岸 南  
 千 号  
 梅 彦  
 明 彦

菖蒲集

ついであけくさのふき原 春の夜り  
ふもつたぬ 春の暮やふき原  
ついであけくさのふき原も花さうり

佛花  
菖蒲  
木

佛の座

それさうさうあけくさのふき原  
えさうさうさうあけくさのふき原  
あけくさのふき原も花さうり

巴  
山  
風

芥

るの作らうらあけくさのふき原  
水とりさうあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原

万  
五  
五  
五  
来

芥

さうさうさうあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原  
芥引てあけくさのふき原

英  
可  
芥  
芥  
芥  
芥  
芥  
芥  
芥  
芥

若菜

若菜花初のうらみかきさうり  
つむ雪の下ふくむ花てわらわ  
袴ふくまきせめてゆわ若菜花  
牛鹿ふくむ花ははまきふ  
さふくもふむて花初若菜  
雪けふふくまきさうり若菜  
さふくもふむて花初若菜  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり

悠々 布川 江村 町月 波静 市橋 乃香 波岡 秀河 権陰 春家 北園

若

若菜花初のうらみかきさうり  
つむ雪の下ふくむ花てわらわ  
袴ふくまきせめてゆわ若菜花  
牛鹿ふくむ花ははまきふ  
さふくもふむて花初若菜  
雪けふふくまきさうり若菜  
さふくもふむて花初若菜  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり  
若菜花初のうらみかきさうり

仁垂 友耕 旭流 相隆 有鳥 一の簫 松風 中々 山方 乃山 梅室

梅

何々やう白ひのきき—庭の梅  
 さりうねて枯々人けや梅の月  
 来こそこれいあもあつらり客の梅  
 梅さきやぬさこのはる—ふもまあ  
 一刻とわらわとる朝や月ともり  
 急うまき—醒の—ききうい雪の梅  
 さひうふ梅いわたりぬ梅の内  
 何々—き月—き月ぬぬ梅の梅  
 一一うむくあとき者—うりあ  
 一—ききいあ—うきや月—梅  
 人なけと梅のうけきん—き梅  
 活てわら梅のぬきき梅—き

生也 北亭 桺風 其巽 文巽 雪年 雪庭 文翠 派久 竹居 杜水 杜山

松成 其角 出外 年守 たけ 勢つゝ 梅与 与ね

うらう—あや—梅さきき—あつら  
 何々—梅うきあや梅の系  
 何々梅わきき—うりき梅いぬ  
 月代—うき—梅の—あやぬの梅  
 何々—あはき—あやの—梅の—あは  
 梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅の—あは—あはき—うり  
 梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅—あは—あはき—うり—あは  
 何々梅—あは—あはき—うり—あは

生也 北亭 桺風 其巽 文巽 雪年 雪庭 文翠 派久 竹居 杜水 杜山

春て初月鼻うきくま梅の花  
 まらぼ八梅よりけりうきききり  
 音とて梅四五梅の本のうら  
 魚けつるふあひや梅もききき  
 部らつ候てききき梅のききり  
 かこもつるかひきききや梅の  
 葉のききき梅のききき梅のき  
 匠人の口はとてきききき梅の  
 眉の結部くや梅よ二口梅  
 月あうー梅と京のちりけき  
 いりりうー人よききや梅の花  
 雲ゆうてんをききき梅や梅のき

石外 半外 五外 五外 梅之 梅之 万里 万古 字耕 女太 可合 遥阿

春て初月鼻うきくま梅の花  
 まらぼ八梅よりけりうきききり  
 音とて梅四五梅の本のうら  
 魚けつるふあひや梅もききき  
 部らつ候てききき梅のききり  
 かこもつるかひきききや梅の  
 葉のききき梅のききき梅のき  
 匠人の口はとてきききき梅の  
 眉の結部くや梅よ二口梅  
 月あうー梅と京のちりけき  
 いりりうー人よききや梅の花  
 雲ゆうてんをききき梅や梅のき

相古 系考 白翁 古厚 梅汁 九外 欣路 念年 古心 考心 貞之 二葉

こぼるるうらりきり松のふ  
り松のたやほろろりうらり松のふ  
少むさしーの道さーはまや松のふ  
まささうれいーかーを松のふ  
あさささ月いりり松のふ  
さささー松のふーを松のふ  
ちさほの松わーをせくや松のふ  
香のりしてさほろろや松のふ  
たささーいーやさーはま松のふ  
ほささささーのうさほや月と松  
え松のうささーはま松のふ  
松ささーやさほろろ松のふ

白路  
ちいつ  
琴舟  
月岸  
文水  
涼谷  
里作  
護民  
護兵  
有節  
西谷  
松堂

こぼるるうらりきり松のふ  
り松のたやほろろりうらり松のふ  
少むさしーの道さーはまや松のふ  
まささうれいーかーを松のふ  
あさささ月いりり松のふ  
さささー松のふーを松のふ  
ちさほの松わーをせくや松のふ  
香のりしてさほろろや松のふ  
たささーいーやさーはま松のふ  
ほささささーのうさほや月と松  
え松のうささーはま松のふ  
松ささーやさほろろ松のふ

朴我  
仏是  
茅雉  
隨流  
悠哉  
何曉  
一府  
田扇  
安世  
山方  
嗟風  
宗古

所へ梅や人寄るつまじき松ときき  
 としよき梅や木肌あはひても  
 松人寄るつまじき松ときき  
 くら里の白一りやうめれをれ  
 白の面をくまも中梅の系  
 人いよ世衆の中きこ松の系  
 くらよしよきや梅うし松の系  
 くらよるのいよ松きこ松の系  
 くらよ世の人をくまも梅とき  
 月代や梅のうまも梅とき  
 くら松ときよのつり也山乃松

夢 貞  
 西 池  
 旭 羽  
 泣 叱  
 急 圃  
 如 亭  
 可 亭  
 折 亭  
 亦 亭  
 淡 亭  
 春 亭

所

梅とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき  
 松とききや人寄るつまじき松ときき

祇 亭  
 素 亭  
 希 亭  
 折 亭  
 亦 亭  
 淡 亭  
 春 亭  
 山 亭  
 梅 亭  
 山 亭  
 味 亭



柳

人さひも岸よりさへし柳  
きよ水の舟よききも柳  
むまひまるさへるもとをる系物  
水うまへおひきのの柳  
川原や柳うねれの系  
さきほどやとつかり柳  
結む柳よしうきもく柳  
親くし柳よさる月おれ  
さしあうの柳うねりやき  
あつきの柳うさあふ  
昔あはれさる門の柳  
月さつと柳うさ

得 益 柳 成 古 上 古 上 古 上  
岸 山 隼 舟 一 村 渡 渡 古 上 古 上  
甲 龍 子 孤 斗 江 庭 岸 岸 古 上 古 上  
岸 山 隼 舟 一 村 渡 渡 古 上 古 上

昔の柳よさる月おれ  
さしあうの柳うねりやき  
あつきの柳うさあふ  
昔あはれさる門の柳  
月さつと柳うさ  
昔の柳よさる月おれ  
さしあうの柳うねりやき  
あつきの柳うさあふ  
昔あはれさる門の柳  
月さつと柳うさ

柳 成 古 上 古 上 古 上  
岸 山 隼 舟 一 村 渡 渡 古 上 古 上  
甲 龍 子 孤 斗 江 庭 岸 岸 古 上 古 上  
岸 山 隼 舟 一 村 渡 渡 古 上 古 上

うしきめしつるうらさる 杵うら  
風あれは海を帆のり杵うら  
人ひしりりや杵乃夕 松  
えはしめしあるきりのせうなる 松葉  
ちりあたるうらふし 仲多やあま  
かもしえふらんをさうりかろ 杵うら  
さきさきうみ岩のつんてわらふさき  
梓河さく新玉を杵うら  
ゆりゆりさきめしあまうら 松葉  
山もねむさねて戸口のやまふら  
一はまきさしあまを 杵うら  
まの國のさしあつてふ 杵うら

すし松  
曲阜  
き角  
松葉  
松丸  
舟外  
舟水  
素席  
敷布  
石半  
山

下  
唄

林

あまのこころをさる 此の岸  
さき山のきえぬ日やさうり  
かかえや 杵葉するふらの  
まの国を 満ちてさるやあま  
あまのこころをさる 此の岸  
わらわや 海を帆のり杵うら  
あまのこころをさる 此の岸  
あまのこころをさる 此の岸  
あまのこころをさる 此の岸  
あまのこころをさる 此の岸

丹  
如  
甲  
大  
乃  
山  
由  
赤  
沼  
橋  
万  
大

若  
草

春草

あけのけのさくらんぼのま  
つらつらあけのけのま  
あけのけのま

安世  
ちさ  
布水

あけのけのま

義友

あけのけのま

外

あけのけのま

規曉

あけのけのま

貞七

あけのけのま

友耕

あけのけのま

宗只

あけのけのま

清宗

椿

あけのけのま

五鈴

あけのけのま

枯亭

あけのけのま

晴舎

あけのけのま

志成

あけのけのま

寺外

あけのけのま

孤舟

あけのけのま

く免

あけのけのま

一府

あけのけのま

波北

あけのけのま

古原

あけのけのま

山方

あけのけのま

山

### 紅梅

お梅のさうりや新の日にて  
紅梅や日の出ぬらの一梅除  
お梅や雪一ふんや一日  
お梅や梅すき梅一家の後

逢后 ぬき 氷壺 山子

### 松の花

おの系ちろや小袖のうさやう  
浦のふれゆきまのの松の  
わさぶらふれゆきまのの花  
解一松おいて 梅さや梅の  
かきおろも梅のの梅の梅の  
くすぬ日梅の梅の梅の梅の

逢后 味吉 昇左 一具 古むす 尾村

### 落乃臺

長一きちろや梅の梅の梅の  
おの系ちろや小袖のうさやう  
浦のふれゆきまのの梅の梅の  
わさぶらふれゆきまのの花  
解一松おいて 梅さや梅の  
かきおろも梅のの梅の梅の  
くすぬ日梅の梅の梅の梅の

乙持 斗一 松三 強年 鈴石 里塩 山女 山子 万古 ことと 五雀

木の芽

ちりしなりとあるや 芽をさす 杉松  
かけ葉もとさつとあ 枝の木の芽の  
せ枝よを木ののうらう 木の芽の  
葉の芽もとゆうとあるのさうと  
ほりしと人の出て 枝木の芽の  
五加木の木の芽も 芽の木の芽  
さうとらやちさう 芽の木の芽  
原小木のうけ芽とらと 木の芽  
さうとらやちさう 芽の木の芽

茶山 芽三 未成 士成 舎用 深蓋 松金 留木 水

莖立

莖

まじれさく月の前さうりふ 枝  
片葉やあやハ 枝の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の  
さうとらやちさう 芽の莖の

中 枝 於 枝 干 糸 派 之 弄 山 柳 成 意 成 相 恒 古 山 大 山 女

蒲公英

たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
蒲公英やあまのこころのこころを  
朝草やあまのこころのこころのこころを  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる  
たんちやくはるはるはるはるはるはるはる

土筆

一寸具  
石寺  
杉塔  
西馬  
山子  
急系  
山子  
徳々

摘草

五加木

五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを  
五加木やあまのこころのこころを

系  
山子  
菊頃  
士  
古磨

獨活

獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを  
獨活やあまのこころのこころを

抱儀  
厚了  
系  
系

茅痛

茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを  
茅痛やあまのこころのこころを

系  
系  
系  
系  
系  
系  
系  
系  
系  
系  
系  
系

接木

上より下へはさむふさぎ 接木のね  
あかしは白くうしろはかる 接木の  
木しるしは皮をむききりて接ぎ  
出けるも古木接ぎしつらふも  
人のくまをわしめいふ接木の  
たれとてついでちりもせうめ接木の

石指  
鹿皮  
松皮  
良和  
阜山

柳

川海もまたさうさうさう 柳の  
さしうめはつて又さし柳の  
なまのうすはくさくさし柳

法風  
布山  
幽年  
茶藨

木

系省の日本はゆきとのさし木  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も

山子  
山子  
山子  
山子  
山子

根分

さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も

山子  
子孫子  
徳哉  
厚子  
山子

葉苗

さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も  
さし木もさし木もさし木も

新成

桑

桑の葉をさしし序ふりひらり  
さしし苗や折しきとさ久植あまう

作  
山子

為山

桑橋

桑のつやも氣ふたうわしく  
桑橋や川をささんてさうをさし

坪水

山子

以山

茶摘

細うれも茶の縁り茶つら  
えおひ強うけあひる茶橋り  
ひしとり橋りよゆる茶つら

去年

義香

雲橋

久池

茶

体むきふも茶をわう茶つら  
姑のさしむくさ茶橋り  
口へ茶やおひかす茶つら

茶山

茶山

山子

茶の葉も所家のうも茶山

茶山

茶の葉も伸らうも茶山

六橋

茶の葉もさうも茶山

大け

茶の葉の中も茶山

月山

茶の葉も茶山

山子

茶の葉も茶山

山子

茶の葉も茶山

山子

茶  
乃  
花





桃

連つ柳や少いならりこそ松をしくは  
又高ねをまゝ 霞の柳や 田舎を  
まゝなやうや 柳にまゝのやうな 柳を  
連つ柳の糸りもよゆく 傍ふらり  
連つ柳や 実ほく 雲のむき  
かゝ 末となくく まぢのさうり 春  
松さくや 川は 岩の 岩戸つふ  
あつちふ 傍て ころや わくの糸  
くの糸も まつく 中や 松の花  
まつらりも つの糸 末ならりや 松の糸  
傍まひら 山に 雲の 花の

春松  
乙良  
山松  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方

海松や ももたらりや 松の糸  
柳の糸を 留まともなりや 松の花  
いつやうも 松の 花の 花の  
松さくや 山に 雲の 雲の  
むらりある 雲の 雲の 雲の  
日とくけり あきも 松や 松の糸  
松の糸を みて まじや 松の花  
松の糸の 末を まじや 松の花  
まつらりも つの糸 末ならりや 松の糸  
傍まひら 山に 雲の 花の  
松の糸

春松  
乙良  
山松  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方  
山方

海棠

海棠や木深うらむ日向水  
海棠や小きのあけし音のる  
海棠よ花屏風と古法流る  
陰深のうらりか深まん梨のむ  
晴さくうらむむせりりなりの花  
さきんぬおのひふりり梨の系  
日如もあふとふさうのさ  
かしのさふさふさうさうさ  
ハモのさうさうさうさ  
辛夷さくあつてらひさうは居居

多印  
一  
卓  
山  
五  
花  
山  
方  
山  
方

梨花

辛夷

發

木蓮花

石楠木

藤やうらむさくさくさくさく辛夷花  
水の上のうらむさくさくさく  
陽のうらむさくさくさく辛夷花  
たさむさくさくさくさく木蓮花  
さくさくさくさくさく木蓮花  
木蓮花乃さくさくさく木蓮花  
花のさくさくさくさく木蓮花  
石楠木やさくさくさくさく  
石楠木やさくさくさくさく

水  
里  
感  
山  
山  
山  
山  
山  
山

青麦

青麦の上よふさへひつむし  
すさやほあきまむ甲のせり  
とめまふらまはらりり一  
まきやひりまへ入る滝の末  
山高のつらあまらるわひり  
子殿やあえるよふのある寺  
まきまきまきまきまき  
不枝ひも又一つ回やま川殿  
けしけの山と殿のふららふ  
らあまきまきまきまき  
風まきまきまきまき

万古 相古 鳥外 如等 法流 可蕭 昇市 出松 山子 里塔

岩

北藤

北藤のつらあまらるわひり  
すさやほあきまむ甲のせり  
とめまふらまはらりり一  
まきやひりまへ入る滝の末  
山高のつらあまらるわひり  
子殿やあえるよふのある寺  
まきまきまきまきまき  
不枝ひも又一つ回やま川殿  
けしけの山と殿のふららふ  
らあまきまきまきまき  
風まきまきまきまき

不丈 御風 昇左 風知 省耕 松霞 喰風 五里 松堂 完和 北亭

山次

新風やうらけふささけのそ  
うら杉の下やわきけし小傘  
ふりつてあつらふ友の又ふか  
きもあつらふそのや夏のそ  
徳りとのあつらふ夏のそりい  
あつらふとえし新風りうらけを

乙 西 普 山 山 為  
地 陽 方 山  
味 外 小 抱 木  
令 山 翁 山 公

躑躅

黄

山次やうらけふささけのそ  
うら杉の下やわきけし小傘  
ふりつてあつらふ友の又ふか  
きもあつらふそのや夏のそ  
徳りとのあつらふ夏のそりい  
あつらふとえし新風りうらけを

百 山 小 露 旭 山 梅 龜 得  
丈 方 髯 明 草 子 室 汀 蕪  
可 登 方 髯 明 草 子 室 汀 蕪

鳥 黄

才鳥列ふるきまてハきんくも  
うらはすやあひ月のさまと影の穴  
きりきりおきなま丸める初きり  
谷川やきりのせこぬのゆく  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきいかりけるひと日  
きりきりやきりきりおき日おきり  
啼ぬりおきりうらはすのきり  
うらはすのきりきりおきり  
かきぬりやきりきりおきり  
きりのきりきりおきり  
きりきりおきりおきりおきり

五 耕  
六 旋  
山 方  
云 形  
三 石  
葉 石  
五 流  
可 慎  
宗 峰  
葛 洞  
斗 一  
山 子

うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり  
うらひまやうの相きりて陸子歌  
きりきりおきりおきりおきり

九 々  
悠 羽  
菅 丸  
身 舟  
鼻 左  
美 喜 如  
外  
た け  
吾 首  
相 海  
松 堂  
孤 舟

春ふけをまひやねあしを  
ききききききききききき  
うらやまや水田うらやまの灯  
あふらや水田うらやまの灯  
ききやまききききききき  
ききあひききききききき  
ききききききききききき  
うらやまや水田うらやまの灯

春 志  
衣 志  
桐 古  
杜 唐  
下 知  
松 爨  
山  
梅 室  
乙 良  
夢 向

猫の恋

てんやのききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき  
ききききききききききき

情 静  
鈴 石  
大 歌  
不 退  
ち ち  
身 外  
帆 風  
未 成  
未 成  
法 泉  
不 古

白 魚

かきりけおふささる橋の虫  
此まもふれぬおいらは魚  
そのの糸とるや細い  
朝まともおさる帝のふ  
松えやまゝ魚羹の年  
魚やも福あがりお  
まゝ魚よまねもつるふ  
うくまともなやふ魚の  
ふ魚や印の上ふ魚  
まゝ魚のそわ月々と  
白魚や魚の白ひも

如毒 杜雪 乃雪 山子 山外 山方 嵐富 東洲 蓮風 朴親

鳥 の 巢

まゝやまも巣もほく  
まゝあさふふ魚あ  
白魚も めりやるふ  
祝の歌長あく口  
まゝも巣をほく  
まゝやまもむく  
まゝあさふふ魚あ  
まゝのまの歌  
まゝのまの歌  
まゝのまの歌  
まゝのまの歌  
まゝのまの歌

鳥外 鳥美 鳥友 鳥友 鳥友 鳥友 鳥友 鳥友 鳥友 鳥友



雀子

水不流くさか葉そく雀うね  
あつらうくさまきり果々森  
まきさそくさう雀の花ハ  
秋のあさこさう創うりまきり  
雀まやまのさきさうふおさう  
さうさうふありのまきり  
まきりまや葉の上ふのうり  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子

ちうら  
みん  
水  
常  
嵐  
燒  
造  
市  
多  
吟  
洗

雑子

くささうのさきまや雀乃子  
秋のあさこさう創うりまきり  
雀まやまのさきさうふおさう  
さうさうふありのまきり  
まきりまや葉の上ふのうり  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子  
まきりまのさきまや雀乃子

布  
雪  
山  
為  
梅  
水  
冬  
斗  
瓦  
由

日影さきまゝにうつらうつらと  
雪一丈も積るるやちやあつきの  
勢もきりしけりや舞の係  
陸及びふしりむらや月のま  
きりまゆめり月の影かゝるの  
いつかたきおのめちりやきお  
きりけりや寺地まつりあつ  
きり山さきまゝにや影の終まのや  
ゆきりおとすきりやまのま  
ゆきりふしりやおとすきり  
雨うきりし山のまぢやまのま

下月 渭源 陸山 松岩 柘城 甲者 麻三 祇庭 春室 菊圃 為山

雀 雲

雀のさきまゝにうつらうつらと  
やきりしけりやあつきの  
月代しりけりやあつきの  
陸及びふしりむらや月のま  
きりまゆめり月の影かゝるの  
いつかたきおのめちりやきお  
きりけりや寺地まつりあつ  
きり山さきまゝにや影の終まのや  
ゆきりおとすきりやまのま  
ゆきりふしりやおとすきり  
雨うきりし山のまぢやまのま

雀 相 可 鳥 白 鳥 鳥 小 松 雀 丘 雀 ちうら

春雁

おくるしと松竹 鶯子やけしむる  
河の橋乃そそもあつくひそり哉  
まごも福のまごなりしとてけしむる  
今川のけしむるやけしむる  
あつとまごなりしとてけしむる  
木のかみあつとまごのあつとまご  
そそあつとまごのあつとまご

松 竹 鶯 子  
未 成  
出 産  
松 竹  
松 竹  
山

雁 帰

いづく代もかきつる雁の  
帰る人かきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の  
いづく代もかきつる雁の

松 竹 鶯 子  
未 成  
出 産  
松 竹  
松 竹  
山

燕

鳥きたるるるる 石のりしる  
青鳥まゝのりしる 山にや  
終止の鳥おとすの鳥  
二流の燕さふさふやゆら  
新つるふと出逢入る燕  
何れかのまゝと乾くぬこ  
清らかなるやうなまゝ  
山にや  
つるやうのまゝなる燕の  
吉日よととむらむと  
燕のやうなまゝりしる

山方  
一鳥  
あ山  
は新  
は流  
松水  
燕  
松月  
に鳥

鳥

鳥

干すやうなまゝの燕さ  
軒小入新鳥の燕や  
物多りの流と又鳥も  
さうなまゝと流さるつ  
流るやうなまゝの燕  
木流しとむらむら  
さうなまゝの燕さ  
さうなまゝの燕さ  
さうなまゝの燕さ  
さうなまゝの燕さ

木南  
燕  
素  
山  
其  
多  
流  
未  
燕

まき

かのもきふあふあふまきのる  
知くくしと田くくしと暮るやまのる

万古  
風知

囀

あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき

池  
斗  
可  
会

雲  
入鳥

あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき

陰  
可  
静

初  
蝶

初蝶やまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき

悠  
長  
川  
可  
合  
梧  
成  
布  
小

蝶

あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき  
あつとまきうりやあつとまき

梅  
室  
叩  
月  
ひ  
て  
素  
竹  
院  
水

春てふ山の都てらつくや望のころ  
てつ花やちや藤刺一室の紐  
云々の後く日およなるやゆるまよ  
ゆありの世を流るとそや成り候  
ゆる候や執く景より新緑の  
木々の影をて居るまよふる春  
候花やいつうなるる花は山  
のつひの日和と新ことてふ  
川待ひあそこのはるや候二り  
物年と候とらてふ日くれは  
まよふ心をもよや小紫やふの候  
てふ花や計産さかかき

古山  
たけ  
法師  
中村  
守武  
文虎  
沼袋  
森年  
天池  
松海  
益園  
木主

さそひあそび澤ふりぬ雪の候  
急しりのまよふとてふ出てふ  
片しりの志のりや候のまよふ  
りりまよふ候不惑とてふ花は  
てやあやあそびとてふ花は  
候まよふや常志のりや候の上  
まよふ候のほいよとてふ花は  
あそびとてふ花はとてふ花は  
てやあやあそびとてふ花は  
持相のまよふとてふ候の日知は

鳥外  
戸舟  
山方  
後春  
市文  
杜吾  
柳春  
真金  
標吉  
ぬ山  
号合

樟

葉よあそむる樟や志さるふ冬の花  
ゆいさせの遠くけてある葉樟の丸  
指針とら連乃らうらるる雪片うさ

比 葉  
首 丸  
波 静

楓

あつやうふ葉のうひさるる葉を汁  
くふ葉をう葉 かきむ志くみ葉  
るの貝ハ葉よ志く志を葉を汁  
るはふあつまる友や楓汁  
指針とら連乃らうらるる雪片うさ

比 葉  
首 丸  
波 静

松

松やたけの外のうはふさく  
うつりや目元花のゆるく小松

比 葉  
首 丸  
波 静

桐

片さくや脊と目元むる桐むく  
おろろろあつるや桐汁  
あさりむく汐のあさりや桐汁

杜 水  
呂 木  
味 舍

田 螺

勢りやとらあされる田螺  
足舟とらとらあされる田螺  
あつるやとらあされる田螺  
きくたうらとらあされる田螺  
るはふあつまる友や桐汁

比 葉  
首 丸  
波 静

物 蛙

一対ふふと日らぬて大川蛙  
仰きかへて居るふけえぬ 初蛙  
たつ蛙 田ふきりハ 圃かあく

古山  
一 斎  
竹 靜

蛙

魚もまぬ 水もあつても蛙もぬ  
花のさく蛙もくぐるのまはなり  
雪あふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
むくまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり  
かきまふ蛙もぬ ぬるぬるのさわり

法 風  
斗 一  
陰 風  
干 布  
折 塘  
其 僊  
と 七  
山 旁

魚 鯉

鯉 鱒の 鱒 鱒 鱒 鱒  
女房の 足 出 せ せ せ せ  
う け せ せ せ せ せ せ  
ま の せ せ せ せ せ せ  
ひ 日 せ せ せ せ せ せ

字 門  
以 寧  
仁 泉  
尾 村  
多 外

若 船

その 書 け せ せ せ せ せ  
か け せ せ せ せ せ せ  
か 船 や せ せ せ せ せ せ  
は せ せ せ せ せ せ せ せ  
は せ せ せ せ せ せ せ せ

乙 良  
取 香  
夷 岳  
麻 三  
幽 年



蚕

けふふふもあふさうらふ小館うね  
う館や篝のまふふ春のまう  
ううひのさしう午ふやをり館  
業羅ゆく小人所の春うね  
けしとる春の意やむひと日  
ねんやあまうと春のうら  
うううとねつとねねね  
けしとる春の意やむひと日  
人ふまううつる春乃梅ねん  
うあまううつとぬ実や朝の  
けしとる春の意やむひと日

未  
う  
山  
色  
春  
山  
仙  
梅  
梅  
梅

月

落角

孕鹿

あふあふもあふさうらふ小館うね  
う館や篝のまふふ春のまう  
ううひのさしう午ふやをり館  
業羅ゆく小人所の春うね  
けしとる春の意やむひと日  
ねんやあまうと春のうら  
うううとねつとねねね  
けしとる春の意やむひと日  
人ふまううつる春乃梅ねん  
うあまううつとぬ実や朝の  
けしとる春の意やむひと日

山  
色  
春  
山  
仙  
梅  
梅  
梅

たふししき山くろねやけしき

波都

佐保水や流あまうきぬ新網

千さ

さる庄の裾川伸き流うね

山方

佐保水の谷いしき流の松

山子

さる庄にありて水けふく

彦流

佐保水や流あまうきぬ新網

乃暮

正月やま新水よりあまうきぬ

古山

日のしんといそくせき新水

身之

あひうくまや新水の十日は

その

正月やま新水よりあまうきぬ

心亭

睦月

佐保  
堰

足跡の履ぬるむつさの目黒小

巴淵

まていそくせき新水の十日は

辰野

よしとせきを新水よりあまうきぬ

森年

まのあまうきぬ新水の十日は

西池

あまうきぬ新水の十日は

斗一

あまうきぬ新水の十日は

如本

あまうきぬ新水の十日は

方南

あまうきぬ新水の十日は

舟香

あまうきぬ新水の十日は

尺池

あまうきぬ新水の十日は

七持

あまうきぬ新水の十日は

好有

あまうきぬ新水の十日は

降勇



左義長

寺の中をたふさくもて木の内  
ねんて雲もほくすもんと春  
ふちのりいふふらうしんふ  
相の上心宿やんらの華埃り  
きくともほふうりひんんん  
松風をうしうけてんんん  
形しん下結の宿慈すんん  
林松てんちうむねんんん  
川流やくくもまさんんん  
左義せや様いひやりと木の葉

祐  
卓  
世  
丹  
赤  
松  
橋  
山  
松  
里

網

枕  
師

海邊の橋しんんん  
つふひきやんんん  
松をきや藤村の人んん  
けふ海やぬいけけの枝  
縁ひんんやきんんん

松  
良  
栄  
比  
山

一層の人柄りらて偶偶行  
あにらるるんんん  
ふおりの影いせきんん

文  
吾  
厚

海邊の影をうて松の影うら  
その外に松もあつた松の影

外  
松

祖公

是わくふこふさくくは橋也し  
や~~~~やちう入橋をき橋也し  
橋東も橋も時定してあり危

ちうく  
橋也  
大乃

霞

相の冥けつりともまらぬ物も  
霞~~~~おの名あともまらぬ物  
橋もして水やふせのまらぬ  
霧の尾のけしきもや風も  
はうせく人やまのうらり教  
け~~~~のね整まらぬ物も  
ゆひ~~~~まをり~~~~入日るま  
水もき霧のけしきもありぬ

霧香  
意圖  
骨夢  
元史  
味金  
道流  
未以  
古山

新~~~~のゆるぬのけしきも  
星畑の麓~~~~品あるかきみも  
は~~~~霧のけしきもあ  
や~~~~の輝~~~~のけしきも  
霧もあともあともあとも  
~~~~の岸~~~~のけしきも  
子い~~~~の橋也のまらぬ  
橋もあおもまらぬ物も  
一橋もあともあともあとも  
霧の~~~~のけしきも  
~~~~のけしきもあ  
霧もあともあともあとも

月昇  
音質  
木ま  
有支  
秋香  
霧香  
岩丘  
布水  
橋也  
松堂  
下千  
斗一

船の舟の棹のやうに〜  
あつちを棹さすうかる小ねふ  
二のりの生あひせるかきみふれ  
あつちのさきふ入や小田のふ  
うまふら〜一ねうさしおきさうり  
うまふれぬ日いさ〜きとあむ男  
はのあつちふあつちのさきふ  
うまふら〜さきふあつちのさきふ  
はのあつちふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ

喜山  
松小  
百丈  
晚春  
石路  
松旅  
相院  
丹人  
六松  
喜原  
山

朧夜

あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ  
あつちのさきふあつちのさきふ

舟院  
一具  
お山  
一具  
秋香  
夕友  
味舎  
惟州  
琴  
外

月 朧

おきれてるれいふうり細月  
志のまゝやねまゝりしおの細月  
情の葉の影ふくくやおちる月  
まゝくまゝの姿のあぢひや細月  
山まゝて竹あまゝりおちる月  
ふまゝの一本の影まゝり細月  
まゝけいふまゝけいふやまゝり月  
まゝまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月

依形 可月 ちさ 清泉 杜零 友耕 懐曉 其儘 季山 二省 孤舟 丹嵐

月

けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月  
けいふまゝけいふまゝの影まゝり月

例度 山方 乃山 可箭 味舎 不深 落松 杉占 多外 冷屋 乃山





春寒

まらぬ一葉の影もつらき波のまき  
まらぬ一葉もつらき波のまき  
まらぬ一葉もつらき波のまき

大乃  
まらぬ  
木子

所返

さうねふ口のまきをわけて流るる  
田のまきをわけて流るる  
流るる口やわねまきのまき

巴淵  
まき  
池高

暖

あつふふたつやあつふの月ふり  
あつふふたつやあつふの月ふり  
あつふふたつやあつふの月ふり

波静  
里

初紅

初紅やあつふらまきの  
初紅やあつふらまきの  
初紅やあつふらまきの

金屋  
赤木  
山子

初雷

初雷やあつふらまきの  
初雷やあつふらまきの  
初雷やあつふらまきの

主法  
宗三  
相海

氷解

こけりぬる氷や塔の影ふりし  
こけりぬる氷や塔の影ふりし  
こけりぬる氷や塔の影ふりし

春南  
松美

焼野

山

焼

風のこゝろもよきとらね松葉の  
らり〜と〜ゆる梅雪のほろ  
よとす〜と〜もよ〜と〜と〜と  
山焼や〜と〜と〜と〜と〜と  
山焼る〜と〜と〜と〜と〜と  
山や〜と〜と〜と〜と〜と  
生〜と〜と〜と〜と〜と  
焼山〜と〜と〜と〜と〜と  
山焼と〜と〜と〜と〜と

鳥外  
松月  
西池  
重慶  
文姫  
松月  
松月  
鳥外

春

浮氷

雪間

毎ひと葉つ〜と〜と〜と〜と  
ほろ〜と〜と〜と〜と〜と  
此尾のほろ〜と〜と〜と〜と  
静鈴のち〜と〜と〜と〜と  
松苗の〜と〜と〜と〜と〜と  
ま〜と〜と〜と〜と〜と  
う〜と〜と〜と〜と〜と  
妙〜と〜と〜と〜と〜と

純無  
古山  
惟竹  
木主  
松中  
鳥外  
水壺  
五外  
鳥外  
鳥外

雪 解

若ひくしのさる 雪の音も  
稀人よまゝし門の音も  
うきあしあふくおの音も  
去とれのそはし 木の音も  
おねの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も

物立  
古しら  
そり  
法島  
傳山  
昇寺  
風止  
味舎  
交水  
大寺  
道記

凍 解

春 雪

物中やまの けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も  
けの音も けの音も

山方  
素夜  
宋南  
山方  
梅家  
木汁  
お酒  
相海  
杜雪  
鳥外

淡雪

降やうれきいーさーさのち  
きさむ葉くさのちやまのち  
さのちあふみらー降ふち  
うの中ふらう新さくやまのち  
はららのいりやまのち  
あふらや岸の根さふら  
はらふやさうのちー新科  
はらふさふちあひのち  
はらふやうーさてらる根さ  
あふらや柳打うーさ合年

井舎  
文英  
清泉  
松之  
山方  
隅原  
嵐高  
万古  
山子  
あ山

東風

春

春

風

春のふくやまの柳のち  
おもふやうさのちぬ  
うさやふおふたさる  
さうーとまふらぬ  
枝のちささーまのち  
さうさくはてささひ  
はらふちのちささ  
あふらささささ  
うさささささ  
さのちさささ  
さのちさささ

ち  
う  
五  
わ  
さ  
舎  
松  
中  
丁  
希  
籬

春 雨

あつちの 後とくられてまきの 他  
まきの やめぬくさく あり角  
むさく ー もぬさく ー まきの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞  
まきの やめぬくさく ぬきりまの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞  
まきの やめぬくさく ぬきりまの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞

左耕 栗く 其 爲 倉 松 為 山  
杉 子 左 耕 杉 子 左 耕  
杉 子 左 耕 杉 子 左 耕

あつちの こまの まき ー まきの 他  
まきの やめぬくさく ぬきりまの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞  
まきの やめぬくさく ぬきりまの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞  
まきの やめぬくさく ぬきりまの 他  
うらまひを わらして ぬきりまの 他  
まきの さきふゆき 糸 絞

杜 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗  
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗  
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗

春日

春宵

まるの中らけりや物の類  
 せらふやまをばかしの陰にま  
 まるや新なるまの所のま  
 けりまきつゝまの目さし  
 まるや花のまのふよふ  
 用もまの情おりやまの宵  
 新なるまのまのまのま  
 まるまのまのまのまのま

竹部  
 山方  
 万縁  
 交水  
 山方  
 芽水  
 芽水  
 新古

春夜

春月

まるおやまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま  
 まるのまのまのまのま

春打  
 寒三  
 栗三  
 冬三  
 冬三  
 冬三  
 冬三  
 冬三

春 日

おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月

貞乙 朴家 久史 柳院 甲孝 香頁 未ぬ 波野 布正 山芝

春 水

おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月  
おぼろのさつふふささくしきの月

かね 標吉 山方 山 乙台 柳院 兄介 五の

# 春海

春の海の勢ささうらうらうたるはら  
 人里へ出てひたつやまの海  
 海つらうちうらうらうたるの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 まの海つらうらうらうたる  
 田のつらうたき目ふふ一まの海  
 たるつらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海

斗一  
 乍人  
 吟於  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟

# 春山

春の山の勢ささうらうらうたるはら  
 人里へ出てひたつやまの海  
 海つらうちうらうらうたるの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 まの海つらうらうらうたる  
 田のつらうたき目ふふ一まの海  
 たるつらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海

斗一  
 乍人  
 吟於  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟

# 山笑

春の山の勢ささうらうらうたるはら  
 人里へ出てひたつやまの海  
 海つらうちうらうらうたるの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 まの海つらうらうらうたる  
 田のつらうたき目ふふ一まの海  
 たるつらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海  
 海つらうたき目ふふ一まの海

斗一  
 乍人  
 吟於  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟  
 吟吟



山

山と龍のさめて 菊のやるとり  
言ねく 檜山よりつる 菊ひふ  
里へ せの 流きや 菊山の花

乙歌  
二葉  
か山

遊 糸

糸ねく 牛の鼻 息こく 花より  
木を 下も 糸ねく 糸より 糸  
いと 糸より 糸より 糸より  
糸ねく 糸より 糸より 糸より  
いと 糸より 糸より 糸より  
糸ねく 糸より 糸より 糸より  
糸ねく 糸より 糸より 糸より

山方  
琴巻  
白羽  
松五  
果化  
山子  
直丸

炎 陽

くけろ や や けい けい けい けい けい けい  
陽を や や けい けい けい けい けい けい  
かろろ や や けい けい けい けい けい けい  
くせろ や や けい けい けい けい けい けい  
陽を や や けい けい けい けい けい けい  
くけろ や や けい けい けい けい けい けい  
陽を や や けい けい けい けい けい けい  
かろろ や や けい けい けい けい けい けい  
くせろ や や けい けい けい けい けい けい  
陽を や や けい けい けい けい けい けい  
くけろ や や けい けい けい けい けい けい  
陽を や や けい けい けい けい けい けい

戸友  
戸涯  
月之  
信彦  
一上  
仙其  
岩南  
五久  
淡島  
李候  
五彦

水  
ぬる心

海  
若

降りてくるはうらみの水のかたち  
 白二口はうらむまじりてくる  
 他水もはらやうすまおの歌  
 押さ井や打もさうしてう  
 いふかえんことえんはもむ

昔好  
三省  
雪琴  
松辰  
文北

石こえゆるがうらむは若のか  
 ちくくは若のまうくはむか  
 若若多果やはのまふこむく  
 家こふかのうき浦の日記れ  
 はまのやなまらうねらう若  
 えう波まてとまりくは若の味

布瑠  
相堂  
不浦  
若乐  
關市  
力山

鼻  
餅

二  
日  
茶

その餅や鼻もちくらのまのま  
 むのまのひのうらむやまの  
 交れくと服はうらむまの  
 そりのやまらうらむ餅的

淡島  
香末  
香末  
不交

松人のめうらむ茶や二日茶  
 砂中もはり茶や二日茶  
 浜山も茶のかういかり二日茶  
 さきりれと中のうらむ茶や二日茶  
 多氣のうらむ茶や二日茶  
 船もらやあひい茶の二日茶  
 屋ぬるのあられ茶や二日茶

山信  
ひつ  
麻糸  
荒齋  
好輝  
芥山  
土倉

初 午

初午や時少く流るる他のみ  
まつふや可き唐平の子ねさるる  
と川平や松葉の上ね流るる  
初午やついで唐平の子ねさるる  
まつふや後その妻のむすめ  
初午やついで唐平の子ねさるる  
まつふや後その妻のむすめ  
初午やいつと月夜よそのつら  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ

母舎  
鳥外  
真々  
真山  
唐平  
唐平  
唐平  
唐平  
唐平  
唐平

初 午

初 午

初 午

一面は初午の流るるひんるる  
田の力一のたあき流るる流るる  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ  
初午や時少く流るる他のみ

初午  
初午  
初午  
初午  
初午  
初午  
初午  
初午  
初午  
初午

西行忌

ねんいよふせの中めで物をもんが  
 唐もくく申乃まき平西り長  
 おかしきものをも木もたて西り忌  
 せーに流き城を居てりねまし  
 ねんあやとねもりのまき牛の面  
 ねんき日やえつあしあまの流りや  
 ぬる日のあつてぬー山の上  
 ぬし五つてぬし山越りりぬれ  
 ぬのこいかなんてあふんせのぬり  
 幸相やぬれとりのぬのぬまひ

善海  
 一粟  
 味食  
 吉山  
 昔愛  
 可情  
 麦甲  
 旭高  
 中々  
 夢阿

永

日

永もまきまきあふんせ日 静く  
 永きりや山川の山のまきあつ  
 あつた日のまきあふんせ山のま  
 けりくくく流き城をりりぬれ  
 永きりやえつあしあまの流りぬ  
 ねんあやとねもりのまき牛の面  
 ぬる日のあつてぬー山の上  
 ぬし五つてぬし山越りりぬれ  
 ぬのこいかなんてあふんせのぬり  
 幸相やぬれとりのぬのぬまひ

信玄  
 龜圖  
 正徳  
 侍勇  
 西心  
 尾村  
 系末  
 甲坂  
 涼谷  
 小吉

運日

山代



沙 干 曲 水

まじり人さるる沙干か  
か合を移そ尾を以干か  
沙干かさるるよるやんこら  
甲のさふおそく移山沙干  
やそまきよゆきまじり流  
曲水やせそく移る波人達  
あふやせそく男より

万千 葉中 妻香 笑路 山方 一合 多吟 中吟 ふとら 山凡

長 閑

さふ向いそるるのさる 移  
のさるや人の新と 移  
引きんまふふ寄る 移  
まふまふ 深居 値のさる 移  
移まふまふ 山乃 移  
のさるや 妻まま 移 移  
さひまふかふまふ 移 移  
まふまふの 移 移 移 移  
のさるや 移 移 移 移  
まふまふや 移 移 移 移  
まふまふや 移 移 移 移  
まふまふも 移 移 移 移

移泉 不空 如破 芦屋 杉解 杉堂 杉竹 波路 友耕 松路 山方 為山

麗

細

打

うらうらや細きくし 松よとる  
麗やゆいふなる 五の終  
うらうらや底の厚骨の伝出人  
蕭や明と千をふらうと記  
細うらやきくくくくくくくく  
ほりくかきくくくくくくく  
うらうけくくくくくくくくく  
細うらや夕日とくくく 謝のえん  
とら赤や赤もゆあぬ 何言入  
り埃のくくくくくくくくく  
うらうらくくくくくくくくく

里 夜  
相 堂  
心 兒  
山 方  
松 介  
甲 換  
詩 意  
水 園  
交 契

別  
霜

細うらくくくくくくくくく  
細きくくくくくくくくく  
けく赤や人の体じをえてやん  
細うらや 露をくくくくく  
さくくくくくくくくくく けいゆの門  
山と出る日の如くをくくく  
ゆきくの厚く川まのわぬく  
不二の日のまをくくくくく  
葉如や二粒とれ ぶれく

折 壺  
葉 園  
万 古  
夢 細  
山 山  
冬 松  
表 木  
泳 久  
あ 山  
素 玉

云々

峯入

夏追

待夏

春暮

行

春

猿の子、云々、山に上りて、  
切老月、雲ふき、云々、

猿久  
惟冷

峰入、や、中井、と、出、て、ま、の、上  
ま、の、入、や、人、を、と、出、る、ま、の、時  
い、ま、も、峰、入、ま、の、上、を、下、り

松磯  
清路  
為正

牛、畑、の、匂、ひ、も、ぬ、く、ま、の、上  
峰、入、や、ひ、ろ、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り

夏追  
五具  
芦友

ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り

泳久

ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り

乙強  
杜水  
夢阿

ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り  
ま、の、上、を、下、り、ま、の、上、を、下、り

可蕭  
幸水  
呂雪  
布水  
帆江  
そり



春の物もよりにれてはさるる草花のり  
 けりもやむしるる草花のり  
 春一ぬるる草花のり  
 ひきも草花も果はなつ  
 ゆく草の草花も草花のり  
 ひきも草花も果はなつ  
 ひきも草花も果はなつ  
 ひきも草花も果はなつ

春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花

春の物もよりにれてはさるる草花のり  
 けりもやむしるる草花のり  
 春一ぬるる草花のり  
 ひきも草花も果はなつ  
 ゆく草の草花も草花のり  
 ひきも草花も果はなつ  
 ひきも草花も果はなつ  
 ひきも草花も果はなつ

春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花  
 春 花

引さしの色嬌しい、時の上  
ふそあやあふら 付一せも  
一こぬいふすも 呼て月と梅  
くやもふほりり 枯るまきの上  
地むしぬこや 風てもわきまか  
アてかまいるの 粒らの 粒まか  
二かうり 月るるまのさしり  
アしき 花のあわら 和あか  
鳴りく 花のぬりぬ 米時一ぬ  
もすさか 厚の介や まきのる  
奥ま乃 ぬるをらり 重あを  
詔のまのや 月の四月の 後の上

唯 栗 太 巳 斗 尖 安 完 西 蒸 五 折  
尺 座 筆 剛 一 珍 世 和 池 圃 具 坂

大為とまきさむひのさしり  
初り人いひりりもさき 花時か  
小料 花も青四月の 山あうま  
待さる人よも 待ふあまか  
持しりまきさむりりぬりり  
物あつらえさむりり 年あまか  
んせにきて 吐をつれりり  
信ふやつらむりり 年あまか  
来る人も又さる人も 歳又りり  
聖まらるりのさしり 花を振  
山さきい面しりり 情ふりり  
戸のぬき 待らるやりの 乙をりり

京 花 味 乙 乃 山 松 梅 禊 喜 市 如  
末 房 會 孫 上 方 良 月 之 松 女 議

葉よこしれおにちさきつとふれ  
 こころしてきよあらしらむんか  
 咲てしういつちさくけく風のそ  
 せは又入のそりしうやうの山  
 うしうやうさうさうさうさうさ  
 けりけしきふよりまのゆきまれ  
 雪もやあつたやけりしう  
 雪のあつ山をうしうさの芽は  
 とくさやう雪もまきりけりしう  
 雪もまきりしうとさるれ月

叶良 融海 白海 吾何 強自 柔高 淡高 春葉 曆分

